

# 検査項目検索



## 免疫学的検査 (感染症、ウイルス) Immunology

- 容器画像
- コンベンジウム
- 補足情報
- 前画面に戻る

検査項目名称	マイコプラズマ抗体半定量/CF		
コード	04904		
統一コード	5E106-0000-023-141		
検体必要量(mL)容器 / 保存	血清 0.3	B-1 → S-1	
採取条件・提出条件 / 備考	●補足情報参照		
所要日数	3~5		
検査方法	CF法		
基準値	4倍未満		
実施料 / 判断料	32 判免		

### 容器画像

<p><b>B-1</b> 生化学9 (真空採血管) <b>B-2</b> 生化学6 (真空採血管)</p>	<p><b>S-1</b> 分離用管 (血清・血漿用)</p>
<p>B-1: 真空採血量 9mL B-2: 真空採血量 6mL</p> <p>室温 製造後 1年 血清分離 凝固促進フィルム</p> <p>生化学的検査一般 内分泌学的検査一般 血清学的検査一般 ウイルス学的検査一般</p> <p>分離を必要とする検体については速やかに分離してください。</p>	<p>容器容量 10mL</p> <p>室温 無滅菌</p> <p>生化学的検査一般 内分泌学的検査一般 血清学的検査一般 ウイルス学的検査一般 透析核生化学的検査一般 亜鉛 (血清)</p>

### コンベンジウム

高値	■マイコプラズマ肺炎
低値	
解説	<p>マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマ(Mycoplasma pneumoniae)という微生物に感染することで起こる肺炎である。潜伏期は通常2~3週間で、初発症状は発熱、咳、全身倦怠、頭痛などである。感染により抗体ができるが、生涯続くものではなく、再感染もよく見られる。</p> <p>マイコプラズマ抗体検査のPA法とCF法は、ともにIgMとIgGを測定するが、PA法は主にIgM、CF法はIgGを測定するため、PA法の方が急性期を捉えやすい。CF法はPA法と比較して、高値を示す期間が長い。ペア血清で4倍以上の抗体価の有意上昇を確認すればマイコプラズマ感染症と診断できる。ただし単一血清の場合でも、CF法が64倍以上、PA法が320倍以上であれば、肺炎マイコプラズマ初感染である可能性はきわめて大きい。</p>

### 補足情報

- 肺炎マイコプラズマ抗体のご依頼・ご提出にあたって 急性期 (発病2~7日) と回復期 (2~3週) の検体を同時測定し、回復期の抗体価が急性期の結果の4倍 (2管差) 以上に上昇したとき、血清学的に有意とみなします。急性期の検体は凍結で提出してください。
- CF法、HI法、NT法、FA法など、希釈倍数を報告する項目の基準値は、便宜上、「最低希釈倍率」で表示しています。